

**数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度
応用基礎レベル【MDASH-Advanced Literacy】申請要領**

※MDASH…Approved Program for Mathematics, Data science, and A I Smart Higher Education

(令和8年度新規認定用)

目 次

1. はじめに（応用基礎レベル）	2
(1) 申請主体について	2
(2) 申請する教育プログラムについて	2
(3) 認定における確認の観点について	3
(4) 認定におけるプラス選定について	4
(5) 申請手続	4
2. 新規認定の各提出書類等について	8
(1) 申請様式 1～5	8
(3) プログラムが全学部等が開講されていることが分かる資料	14
(4) プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等	14
(5) 自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）の設置規則等	14
(6) 取組概要	14
(7) その他補足資料	14
(8) 申請書類一式	14
3. プラス選定における審査の観点について（応用基礎レベル）	15
4. 申請様式の記載例について	16

1. はじめに（応用基礎レベル）

（1）申請主体について

【大学等単位】

- 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定される大学、短期大学、高等専門学校が申請主体
- 学校ごとに原則 1 プログラムの申請のみ可

（留意点）

- ・ 1 法人で複数の学校を設置している場合は、学校ごとに申請してください。
- ・ 通信教育課程（部）を別に申請する必要はありませんが、認定を受けようとする通信教育課程（部）の教育プログラムが異なる場合は、別に申請してください。

【学部・学科単位】

※以降、「学部・学科」を「大学の場合は学部、短期大学や高等専門学校の場合は学科」と読み替えてご覧ください。

- 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定される大学の学部、短期大学の学科、高等専門学校の学科が申請主体
- 学部・学科ごとに原則 1 プログラムの申請のみ可

（留意点）

- ・ 複数の学部・学科（例えば、X大学のA学部、B学部）がそれぞれ申請することや、「大学等単位」や「学部・学科単位」をそれぞれ申請すること（X大学としてプログラムの申請と、X大学A学部としてのプログラムの申請）も可能です。
- ・ 大学の学科、短期大学や高等専門学校のコース単位での申請はできません。
- ・ 1つの学部・学科から複数のプログラムを申請することはできません。

（2）申請する教育プログラムについて

- 「数理・データサイエンス・A I（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」（2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）（以下「モデルカリキュラム（応用基礎レベル）」という。）に準拠した教育プログラムであること
- 教育プログラムを構成する授業科目は、正規の教育課程に位置付けられている卒業単位として認められる授業科目であること
- 構成する授業科目については、以下の3つの基本的要素を満たしていること

項目	3つの基本的要素	モデルカリキュラム対応箇所
I	データ表現とアルゴリズム： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、A I を実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎
II	A I ・データサイエンス基礎： A I の歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にA I を活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するA I 基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AI の歴史と応用分野 3-2. AI と社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-5. 生成AIの基礎と展望 3-10. AI の構築と運用
III	A I ・データサイエンス実践： 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・A I 活用 企画・実施・評価」から構成される。	項目I及びII AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI 活用 企画・実施・評価＞

（出典）「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の創設について」（2021年3月 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム 認定制度検討会議）より一部改編

【留意点】

- ・ 大学院や別科、専攻科の授業科目や、入学時のガイダンス、公開講座、寄付講座は対象外です。
- ・ 卒業単位として認められない授業科目を教育プログラムに含めることは可能ですが、認定要件を満たすための授業科目は、卒業単位として認められる科目で構成されている必要があります。
- ・ 教育プログラムを構成する授業科目について、科目数や単位数、教養科目・専門科目への位置付けに関する要件はありません。
- ・ 応用基礎レベルの申請にあたり、リテラシーレベルの認定取得は必須ではありませんが、内容に応じてリテラシーレベルを申請されない理由を確認する場合があります。

(3) 認定における確認の観点について

令和7年度までの実績をもとに、一定の要件を満たした教育プログラムを認定します。申請後は以下のような観点を満たしているかどうか確認しますので、申請大学等においても確認のうえ、申請をお願いします。

<観点（隅付き括弧は関連する申請様式）>

- モデルカリキュラム（応用基礎レベル）に準拠し、前ページの3つの基本的要素に対応する授業科目を教育プログラムの修了要件としていること【様式1関係】
- 「大学等単位」の申請においては、学生が学部・学科に関わらず履修可能な形で開講されていること
- 教育プログラムの「名称」「身に付けることのできる能力」「修了要件」「構成される授業科目」「授業の方法・内容」「プログラムの実施体制」を記載した計画を策定し、学校のホームページ等で対外的に広く公表していること
- 令和7年度までで教育プログラムを実施しており、「大学等単位」の申請においては、複数学部等（人文・社会科学等を含む）から教育プログラムの履修者がいること、「学部・学科単位」の申請においては対象となる学部・学科で教育プログラムの履修者がいること。【様式2関係】
- 学生に対して教育プログラムの履修を促す取組が実施されていること【様式3関係】
- 教育プログラムの関する自己点検・評価、外部評価等を行い、その結果を公表していること【様式4関係】

【留意点】

- ・ 卒業要件上、全学必修科目として開講することを求めるものではありません
- ・ 「複数学部等（人文・社会科学等を含む）」に関する定義
複数学部等：大学においては2つ以上の学部、短期大学・高等専門学校においては2つ以上の学科のことを指す。
ただし、単一学部のみ大学、単一学科のみ短期大学・高等専門学校においては、2つ以上の専門分野等
人文・社会科学等：学校基本調査の「学科系統分類表」のうち、次の分類
大学は「理学」「工学」「農学」「保健」「商船」以外の学部
短期大学は「工業」「農業」「保健」以外の学科
高等専門学校は「工業」「商船」以外の学科

- ・ 「学部・学科単位」の申請においては、人文・社会科学分野等を含む複数の専門分野の学生の履修は必要ありません。また、全学部・学科に開講している必要もありません。

(4) 認定におけるプラス選定について

他大学等の参考となるような先導的な特色ある教育プログラムの実績がある場合、認定とは別に申請のうえ、応用基礎レベルプラスとして選定される場合があります。選定における審査の観点については、「プラス選定における審査の観点について（応用基礎レベル）」(p. 15)をご確認ください。

なお、これまでの選定校の取組等により認定校は増加傾向にあり、選定の目的であった全国の大学等への普及・展開については一定の成果が上がっています。一方で、急速な技術革新や社会的なニーズに対応した人材育成が求められる領域であることも踏まえ、教育プログラムの改善を図りながら教育の質向上を一層図っていく必要があるため、令和8年度選定にあたっては、審査の観点を変更しています。

<申請要件>

- 応用基礎レベルの認定を既に受けている教育プログラムであること、または、応用基礎レベルの認定も同時並行で申請していること

(5) 申請手続

① 申請受付期間

令和8年4月15日(水)～令和8年5月18日(月) 17:00 締切

② 申請方法

申請区分に応じて「③申請書類」に記載の書類を準備のうえ、申請受付期間内に次の2点を対応してください

- 申請書類を Box 上にアップロードする

【アップロード先 URL】

<https://mext.ent.box.com/f/59e6b224ed0f486594cfc9606c36cd76>

- 申請フォーム (Microsoft Forms) に必要情報を入力し、送信する

【申請フォーム URL】

<https://forms.office.com/r/ssORDUaTSz>

【留意点】

- ・ 申請書類について、申請するファイルを1つの zip ファイルにまとめ、ファイル名を次のようにしたうえで、アップロードしてください。
大学等单位： 「【応用基礎】〇〇大学」
学部・学科単位： 「【応用基礎】〇〇大学△△学部」
- ・ 提出書類のアップロードと申請フォーム上での送信を完了後、文部科学省又は文部科学省より業務委託を受けた者より、申請者(申請フォームに記載のメールアドレス)に対して、受領確認メールを送信します。
- ・ ※受領確認メールを受信した旨の連絡は不要です。
- ・ ※申請後2週間を経過しても受領確認メールが届かない場合は、文部科学省まで連絡してください。

【連絡先】

高等教育局 専門教育課 情報教育推進第一係 (03-6734-4750)

③ 提出書類

申請区分に応じて、以下の提出書類を準備してください。

なお、紙媒体の提出・郵送は必要ありません。また、申請書の提出に当たっては、機関として提出することを前提とし、提出に係る添書（かがみ文）及び当該文書への押印は不要です。

<提出書類一覧>

提出書類の種類 (太字はファイル名)	提出書類の可否		提出様式
	先行 認定	プラス 選定	
(1) 申請様式1～5 (様式1～4はExcel形式、様式5はWord形式) 01【応用基礎】〇〇大学(申請様式1～4) 01-2【応用基礎】〇〇大学(プラス申請様式5)	○	○	Excel PDF
(2) プログラム構成科目の令和7年度シラバス (又は授業内容と同等なもの) 02【応用基礎】〇〇大学(シラバス)	○	—	PDF
(3) プログラムが全学部等が開講されていることが 分かる資料(カリキュラムマップ、教育課程表等) 03【応用基礎】〇〇大学(カリキュラムマップ)	○	—	PDF
(4) プログラムを改善・進化させるための体制 (委員会・組織等)の設置規則等 04【応用基礎】〇〇大学(プログラム改善体制規則)	○	—	PDF
(5) 自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)の 設置規則等 05【応用基礎】〇〇大学(自己点検・評価体制規則)	○	—	PDF
(6) 取組概要(1ページ ひな形様式) 06【応用基礎】〇〇大学(取組概要)	○	○	PowerPoint
(7) その他補足資料(2ページ以内 提出任意) 07【応用基礎】〇〇大学(補足資料)	△ (任意)	△ (任意)	PDF
(8) 申請書類一式 【応用基礎】〇〇大学(書類一式)	○	○	PDF

④ 申請フォームについて

以下の事項について、申請フォーム(Microsoft Forms)より必ず入力してください。

【申請機関の情報】

➤ 大学等の設置者

学校教育法第2条に基づき、申請時点の設置者名を記載してください。

例：国立大学法人〇〇大学、学校法人◆◆学園 等

➤ 学校名

申請時点の学則に記載されている名称を記載してください。

例：〇〇大学、◆◆高等専門学校 等

- 学校の所在地
学校の本部が所在する都道府県をプルダウンで選択してください。
- 設置形態
「国立大学」、「公立大学」、「私立大学」、「公立短期大学」、「私立短期大学」、「高等専門学校」、「その他」から選択してください。
- 担当者氏名
申請する教育プログラムにおける窓口となる者の氏名を記載してください。
- 担当者所属部署（役職）
担当者の所属部署（役職）を記載してください。
- メールアドレス
担当者のメールアドレスを記載してください。
※申請内容について問い合わせをする場合がありますので、可能な限りグループアドレス等、複数の担当者が確認できるアドレスを記載してください。
- 電話番号
担当者の連絡先を記載してください。

【リテラシーレベルについて】

※申請がない場合は「申請なし」を選択または空欄にしてください

- 申請区分【リテラシーレベル】
リテラシーレベルの申請区分を選択してください。
- プログラム名【リテラシーレベル】
リテラシーレベルに申請する教育プログラムの名称を記載してください。

【応用基礎レベル（大学等単位）について】

※申請がない場合は「申請なし」を選択または空欄にしてください

- 申請区分【応用基礎プログラム（大学等単位）】
応用基礎プログラム（大学等単位）の申請区分を選択してください。
- プログラム名【応用基礎プログラム（大学等単位）】
応用基礎プログラム（大学等単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。

【応用基礎プログラム（学部・学科単位）について】

※申請がない場合は「申請なし」を選択または空欄にしてください

- 申請区分【応用基礎レベル（学部・学科単位）】
応用基礎プログラム（学部・学科単位）の申請区分を選択してください。
- 申請内訳【応用基礎レベル（学部・学科単位）】
申請する教育プログラムの申請件数、対象学部等を記載してください。
例：3件（文学部、工学部、医学部）
- プラス申請内訳【応用基礎レベル（学部・学科単位）】
プラス申請する教育プログラムの申請件数、対象学部等を記載してください。
例：2件（工学部、医学部）
- プログラム名【応用基礎レベル（学部・学科単位）】
応用基礎レベル（学部・学科単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。

※複数の学部・学科で申請する場合、例のように、プログラム名ごとに句点で区切って記載してください。(例：〇〇大学データサイエンスプログラム(文学部)、〇〇大学データサイエンスプログラム(工学部))

【プログラムの公表について】

➤ プログラムの公表情報

申請する教育プログラムについて、HP等での掲載状況を確認するため(PDFファイルのURLではなく)該当情報が掲載されているウェブページ(HTMLページ)のURLを記載してください。

※PDFファイルへの直接リンクではなく、ウェブページをご記入ください。

※応用基礎レベル(学部・学科単位)の教育プログラムを複数の学部・学科で申請する場合、公表アドレスが異なる場合は例のように記載してください。

例：(文学部) <https://www.〇〇〇>、(工学部) <https://www.◇◇◇>

➤ 公表情報の確認

プログラムを公表しているウェブページにおいて網羅すべき事項について、掲載されていることを確認し、チェックを入れてください。

【公表に必要な事項】

- プログラム名称
- 身に付けることができる能力
- 修了要件
- 開講されている科目の構成
- 授業の方法および内容
- 実施体制
- 自己点検・評価の結果
- 申請書類一式(認定後)

【留意点】

- ・ 掲載内容は提出書類等と一致するようにしてください
- ・ 授業の方法および内容については、当該教育プログラムのHP内に対象科目のシラバスを掲載いただくか、シラバス検索ページへの遷移するリンクを掲載してください。ウェブページ内に直接記載いただいても差し支えありません)
- ・ 自己点検・評価の結果について、認定を受けようとする教育プログラムの開設年度から令和7年度までの各年度の自己点検・評価を公表してください。なお、令和7年度の自己点検・評価については、申請時点での掲載が困難な場合、申請時点においては、様式4を掲載することでも差し支えありません(自己点検・評価が確定し次第、差し替えること)。
- ・ 「申請書類一式(認定後)」については、認定または選定後に掲載していただくため、申請時点での掲載は不要です。認定または選定後、別途、詳細をご案内します。

2. 新規認定の各提出書類等について

(1) 申請様式 1～5

申請する教育プログラムの内容やこれまでの実績、質向上を図る体制・計画などについて、指定様式 1～4（プラス申請される場合は、様式 1～5）に記載してください。各様式の留意点については、以下をご確認ください。あわせて、記載例（p.16 以降）もご参照ください。

様式 1 プログラムを構成する授業科目について

大学等名 : 申請の主体である大学等名（正式名称）を記載してください。

プログラム名 : 申請する教育プログラム名を記載してください。

後述の（6）取組概要および（9）HP の記載と一致させてください。

①申請単位

「大学等全体のプログラム」又は「学部・学科単位のプログラム」のどちらかをプルダウンで選択してください。複数の「学部・学科単位のプログラム」を申請する場合、学部・学科ごとに申請書類を作成する必要があります。

②既認定プログラムとの関係

<学校として大学等単位、学部・学科単位のいずれの認定も受けたことがない場合>

→「新規申請（応用基礎レベルの既認定無）」を選択

<既に学部・学科単位で認定されたプログラムを、大学等単位に移行する場合>

→「大学等単位へ拡大」を選択

<既に学部・学科単位で認定されたプログラムとは別に、大学等単位で申請する場合>

→「既認定プログラム（学部・学科単位）とは別に新規のプログラムとして申請」を選択

【留意点】

- ・①で「学部・学科単位のプログラム」を選択した場合は記載不要です。

③教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件が相違する場合は「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択してください。学部・学科によって修了要件の相違はなく、全学部・学科に同一の修了要件を設定している場合は、「学部・学科によって、認定要件は相違しない」を選択してください。

【留意点】

- ・①で「学部・学科単位のプログラム」を選択した場合は記載不要です。

④対象となる学部・学科等名称

<③において、「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択している場合>

様式 1 のシートを複製し、④に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載して、修了要件ごとに様式 1 を作成してください。複数の学部・学科で同じ修了要件の場合は、同じシートに記載してください。

＜③において、「学部・学科によって、修了要件は相違しない」を選択している場合＞
この項目は記載不要です。

【留意点】

- ・①で「学部・学科単位のプログラム」を選択した場合は記載不要です。様式1上部の「プログラム名」欄に、記載例（p.16以降）に従って、申請学部名を明記してください。

⑤プログラム履修必須の有無

全学部・学科等、もしくは④で記入した学部・学科等において、申請する教育プログラムを卒業までに必ず履修するものとして実施している、又は、今後履修必須とする計画があるかどうかについて、プルダウンの中から選択して回答してください。

【例1】令和7年度以降の入学生全員に履修を課している認定教育プログラム

→「令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施」を選択

【例2】令和7年度までは希望者のみが履修していたプログラムについて、令和8年度以降の入学生全員に履修させることに変更した

→「令和9年度までに履修必須とする計画」を選択

【例3】A学部a学科は履修必須だが、A学部b学科においては履修任意となっている

→大学においては学部単位で判定するためb学科で履修必須とする計画がなければ「令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定」を選択

⑥修了要件

申請する教育プログラムの修了要件を具体的に記載し、3つの基本的要素の内容を含む授業科目を必ず履修する修了要件となっていることを確認してください。

記載にあたっては、「⑦プログラム構成科目」の記載と対応させる（例 必須科目4単位、選択必須科目から6単位の計10単位）等、修了要件を満たすための条件を分かりやすく記載してください。

⑦プログラム構成科目

- 「必要最低科目数・単位数」欄には、プログラムの修了に必要な最低科目数、単位数を記載してください。
（例 A学部a学科は3科目6単位だが、A学部b学科は2科目4単位の場合）
→b学科の「2科目4単位」を記載してください。
- プログラムを構成する授業科目を「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」に分類して、科目名、単位数、モデルカリキュラム対応状況欄に記載してください。
- 「モデルカリキュラム対応状況」は、2ページにある、3つの基本的要素とモデルカリキュラム（応用基礎レベル）の対応表をもとに、該当する学習内容を含むものにすべて「○」を選択してください。

【留意点】

- ・修了要件を満たすパターンが複数ある場合、どのパターンにおいてもⅠ、Ⅱ、Ⅲの太枠内の項目は網羅していることを確認してください。

- ・1-3、1-4、1-5、2-3、2-4、2-5、2-6、3-6、3-7、3-8、3-9については、認定上必須ではありませんが、該当がある場合のみ「○」を選択してください。
- ・「AI・DS実践」については、当該科目が演習やPBLなど実践の場を通じた学習体験を行っているものに該当する場合、「○」を選択してください。
- ・「数学発展」「AI応用基礎」「データサイエンス応用基礎（DS応用基礎）」「データエンジニアリング応用基礎」は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の創設について（2021年3月数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議）に記載のある選択項目になるため、該当がある場合のみ「○」を選択してください。

（参考）応用基礎レベルの創設について（p.16～p.17に記載）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/suuri/ouyoukiso.pdf>

- ・選択項目に該当しない授業科目については「その他」を選択してください。
- プログラムの修了要件に含まれない履修推奨のような科目は、「選択科目」欄に記載してください。
- 「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」欄が不足する場合には、適宜行を追加してください。
- 記載する「授業科目」「単位数」が他の書類等（シラバスやHPの記載）と一致しているかどうか確認してください。

⑧プログラムを構成する授業の内容

「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄について、以下リンク先のモデルカリキュラム（応用基礎レベル）の「応用基礎レベルモデルカリキュラムの構成（リンク先ファイルP.11）」の項目ごとに、スキルセット（リンク先ファイルP.14以降）を参照の上、授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）、授業科目をそれぞれ記載してください。

（参考）モデルカリキュラムについて

https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_ouyoukiso_20240222.pdf

【留意点】

- ・スキルセットのキーワード（知識・スキル）の全てを網羅する必要はありません。申請するプログラムの授業科目ごとに、当てはまるキーワードのみ「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に転記してください。

（例）授業科目「統計学」が「1-6」の項目を満たしており、スキルセット内の「・代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差」「・相関係数、相関関係と因果関係」のキーワードが該当する場合

→「1-6」の「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に以下を記載

- ・代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差「統計学」
- ・相関係数、相関関係と因果関係「統計学」
- ・「授業に含まれている内容・要素」（3）Ⅰ、Ⅱの「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄には、「AI・DS実践」に「○」を選択した科目について、スキルセットのキーワード（知識・スキル）を転記してください。

⑨プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

申請する教育プログラムの修了時に学生等が身に付けられる能力等、学修成果を記載してください。

様式2 プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

申請する教育プログラムの開設年度を記載してください。令和7年度以前に開設されていない場合には認定できません。

②履修者・修了者の実績

● 学部名称

大学の場合は令和7年度に設置されている全ての学部、短期大学・高等専門学校の場合は令和7年度に設置されている全ての学科を記載してください。学部の中に修業年限が異なる学科がある場合は、当該学部については学科別に記載して差し支えありません。

● 学生数（うち女性含む）、入学定員、収容定員

いずれも学校基本調査（令和7年5月1日現在）と同様に記載してください。

● 履修者数、修了者数

・履修者数は、当該年度において教育プログラムの履修を開始した学生の人数を計上してください。複数年度にまたがる教育プログラムの場合、履修者数については、履修を開始した初年度に計上してください。

・修了者数は、当該年度において教育プログラムの修了要件を満たした学生の人数を計上してください。

・年度ごとの履修者数、修了者数について、「①プログラムの開設年度」と整合が取れるよう確認して記載してください。（プログラムの開始年度が令和6年度の場合、令和6年度及び令和7年度の欄に履修者を記載してください。）

・履修者（修了者）がいない学部は「0」と入力してください。

● 履修者数合計、履修率、合計

セルに式が入っているため、直接、数字等をセルに入力しないでください。

様式3 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

①全学の教員数

教員数（常勤）は学校基本調査（令和7年5月1日現在）の教員数（本務者）の数を記載してください。教員数（非常勤）も同様に令和7年5月1日現在の数を記載してください。

②プログラムの授業を教えている教員数

申請する教育プログラムを構成する授業科目を担当している教員数を常勤、非常勤含めて令和7年度における合計人数を記載してください。

③プログラムの運営責任者

申請する教育プログラムの運営責任者名とその役職名を記載してください。

④プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

申請する教育プログラムにおける不断の改善を図るための委員会・組織等の名称を記載してください。

⑤プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則を記載してください。

⑥体制の目的

④に記載した体制における目的を記載してください。

⑦具体的な構成員

④に記載した体制における申請日時点での構成する委員の氏名、役職を記載してください。

⑧履修者数・履修率の向上に向けた計画

毎年履修率が上昇する計画となっているかどうか確認するため、令和8年度予定、令和9年度予定、令和10年度予定、令和11年度予定の欄には、令和7年度の履修率の実績を踏まえた履修率の目標値を具体的に設定し、単位を%で記載してください。(令和7年度時点で100%以上の場合には令和8年度～令和11年度は「100%」と記載)

また、「具体的な計画」の欄に、各年度の目標値を達成するための具体的な方策を年度ごとに記載してください。

⑨学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

担当者を配置するなど、学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような特色ある体制を記載してください。

⑩できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンスの周知など、できる限り多くの学生が履修できるような各大学等の特色ある周知方法を具体的に記載してください。

⑪できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学修サポート、学内外の資源利用やICT環境の活用など、できる限り多くの学生が履修・修得できるような各大学等の特色あるサポート体制を記載してください。

⑫授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける各大学等の特色ある具体的な仕組みを記載してください。

様式4 自己点検・評価について

①プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

申請する教育プログラムにおける適切な視点・項目に基づいた自己点検・評価、外部評価等を定期的実施している委員会・組織等の名称、責任者名及び役職名を記載してください。

②自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点について、自己点検・評価体制における自己点検・評価の結果や不断の改善・進化に向けた取組を記載してください。

様式5 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

本様式は「プラス」に申請する場合のみ、提出してください。プラス申請については、本様式及び後述の取組概要等を参考に、他大学等の規範となり、ステークホルダーから支持される先導的で独自の工夫・特色のある教育プログラムとなっているかどうかの観点から審査いたします。

なお、これまでの選定校の取組等により認定校は増加傾向にあり、選定の目的であった全国の大学等への普及・展開については一定の成果が上がっています。一方で、急速な技術革新や社会的なニーズに対応した人材育成が求められる領域であることも踏まえ、教育プログラムの改善を図りながら教育の質向上を一層図っていく必要があるため、令和8年度選定にあたっては、審査の観点を変更しています。詳細は「プラス選定における審査の観点について（応用基礎レベル）」(p.15)を確認してください。

①教育の高度化

地域や企業からのニーズを踏まえた実践的な教育の実施、プログラムを修了した卒業生や就職先企業等からの評価に基づいた教育プログラムの改善、AI 利活用による研究の効率性・生産性向上に資する研究者養成につながる教育の展開など、応用基礎レベルのプログラム構築に留まらず、数理・データサイエンス・AI を応用できる人材の育成に資する取組や、学生自身が学んだ知識やスキルを可視化できるような取組などについて、具体的に記載してください。

②人材の輩出

構築する教育プログラムが、関連学会や地域コミュニティ、産業界からのニーズを踏まえたものや、特定の成長分野（例えば、日本成長戦略会議で設定する17の戦略分野※）を支える専門人材養成につながるものであるなどの先進的な取組や、学部の特性に応じた履修者数、修了者数を増やすための工夫について、具体的に記載してください。

③その他の取組

社会人のリスキリングに資する取組、海外の先端的な教育プログラム等の活用などをはじめ、地域連携や産業界との連携、海外の大学等との連携等について、具体的に記載してください。

【留意点】

- ・申請単位が「大学等単位」の場合は、「大学等単位」の様式を、申請単位が「学部・学科単位」の場合は、「学部・学科単位」の様式を使用してください。
- ・ページ数は様式5全体で3ページ以内とし、適宜図表を使用するなど分かりやすくなるよう工夫をしてください。

※日本成長戦略本部（令和7年11月4日閣議決定）で検討する戦略分野

- ①AI・半導体、②造船、③量子、④合成生物学・バイオ、⑤航空・宇宙、⑥デジタル・サイバーセキュリティ、⑦コンテンツ、⑧フードテック、⑨資源・エネルギー安全保障・GX、⑩防災・国土強靱化、⑪創薬・先端医療、⑫フュージョンエネルギー、⑬マテリアル（重要鉱物・部素材）、⑭港湾ロジスティクス、⑮防衛産業、⑯情報通信、⑰海洋

（参照 URL）<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/index.html>

(2) プログラム構成科目の令和7年度シラバス

申請するプログラムを構成する授業科目の令和7年度シラバスについて、様式1に記載している科目順に並べ、一つのPDFファイルにしたうえで提出してください。

【シラバスに網羅すべき内容】

「開講年度（欄がない場合には、授業科目名近くの余白に記載）」「学修目標」、「授業の方法」、「授業内容」、「年間の授業計画」、「単位数」、「担当教員」、「成績評価方法等」が分かる資料を提出してください。

【留意点】

- ・入学年度による構成科目の相違や次年度以降に初めて開講する等の事情がある場合は、令和7年度以外のシラバスまたは、【シラバスも網羅すべき内容】を記載した授業計画に関する資料を提出してください。
- ・単位互換等を実施している授業科目については、単位互換等に係る協定書等を該当の科目のシラバスの後に添付して提出してください。

(3) プログラムが全学部等が開講されていることが分かる資料

原則、令和7年度入学者に適用されているカリキュラムマップ等の資料（1ページ目の右上に「令和7年度入学者用」と付記）を提出してください。

(4) プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等

様式3に記載の体制の名称、規則名称と一致していることを確認のうえ、該当の設置規則を提出してください。

(5) 自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）の設置規則等

様式4に記載の体制の名称と一致していることを確認のうえ、該当の設置規則を提出してください。なお、「(4) プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等」で提出する規則と同一である場合、空ファイルで構いませんので、「05【リテラシー】〇〇大学（自己点検・評価体制規則）←04 と同一.txt」といった形で提出してください。

(6) 取組概要

ひな形様式を利用し、申請する教育プログラムに関して、「プログラムの目的」「身に付けられる能力」「開講されている科目の構成」「修了要件」の4項目（プラス申請の場合は、「先導的な独自の工夫、特色が分かる内容」も含めた5項目）を記載した概要資料を作成してください。作成にあたっては、適宜図や写真等も活用し、1ページにまとめたうえで、PowerPoint形式のまま提出してください。

【留意点】

- ・1ページを超える場合は、後述の(7) その他補足資料として別途提出してください。
- ・既に応用基礎レベルが認定されていて、プラス申請のみ行う大学等においては、ひな形様式の2ページ目の「プラスのみ申請用」を活用してください。
- ・プログラムの名称や授業科目などが他の提出資料と相違ないようにしてください。
- ・本資料は文部科学省において公表資料として使用する可能性があります。

(7) その他補足資料

(6) 取組概要に記載以外の補足事項（例えば、体制・計画に関する事項や、自己点検・評価に関する事項など。）がある場合のみ提出してください。提出にあたっては、適宜図や写真等も挿入し2ページ以内にまとめてください。ひな形はありません。

(8) 申請書類一式

(1)～(7)の必要書類を順番に並べて1つのPDFファイルにまとめてください。（申請様式も様式1から順番になるように並べてください。）

プラス選定における審査の観点について（応用基礎レベル）

「教育の高度化」、「人材の輩出」及び、「その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）」に関して、「教育の質向上」、「先進性・独創性」、「波及可能性」を評価の軸として、総合的に選定する。

○ 評価事項（想定される取組を記載）

- ・教育の高度化
 - 対象となる専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用・活用した教育プログラムの構築
 - 地域・企業からのニーズを踏まえた実践的な教育の実施
 - プログラムを修了した卒業生や就職先企業等からの評価に基づいたプログラムの改善
 - 学生自身が学修成果（知識やスキル）を可視化できるシステムの導入
 - AI 利活用による研究の効率性・生産性向上に資する研究者養成につながる教育
 - 他大学等への教育プログラムの提供等により教育波及効果が得られている
 - その他
- ・人材の輩出
 - 学部の特性に応じた履修者数、修了者数を増やすための工夫
 - 関連学会や地域コミュニティ、産業界からのニーズを踏まえた教育プログラム
 - 数理・データサイエンス・AI に関連した、特定の成長分野（例 日本成長戦略会議で設定する 17 の戦略分野*）を支える専門人材を養成する先進的な取組
 - その他
- ・その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）
 - 地方公共団体や企業との連携による、社会人のリスキリングに資する取組
 - 海外の先進的な教育プログラム等の活用や連携
 - 「A I 戦略 2019」で位置づけられた「エキスパートレベル」との間の橋渡しとなるような人材の育成
 - その他

○ 評価軸

- ・教育の質向上
- ・先進性・独創性
- ・波及可能性

○ 評価事項と評価軸

評価軸	教育の質向上	先進性・独創性	波及可能性
評価事項	・教育の高度化 ・人材の輩出 ・その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）		

※日本成長戦略本部（令和 7 年 11 月 4 日閣議決定）で検討する戦略分野

①AI・半導体、②造船、③量子、④合成生物学・バイオ、⑤航空・宇宙、⑥デジタル・サイバーセキュリティ、⑦コンテンツ、⑧フードテック、⑨資源・エネルギー安全保障・GX、⑩防災・国土強靱化、⑪創薬・先端医療、⑫フュージョンエネルギー、⑬マテリアル（重要鉱物・部素材）、⑭港湾ロジスティクス、⑮防衛産業、⑯情報通信、⑰海洋
 （参照 URL） <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/index.html>

⑧プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「科目a」 ・代表値(中央値、最頻値)、分散、標準偏差「科目a」 ・確率分布、正規分布「科目a」
	1-7 ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「科目a」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「科目a」 ・...
	2-2
	2-7
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種別や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1
	1-2
	2-1
	3-1
	3-2
	3-3
	3-4
	3-5
	3-10
	(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学習項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学習項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。
II	

モデルカリキュラムに記載されているスキルセットの文言をそのまま使用してください。スキルセットの全てを網羅する必要はありません。

I 及び II については、応用基礎コアの「I. データ表現とアルゴリズム」「II. AI・データサイエンス基礎」を指します。演習やPBL等の実践の場を通じた学習体験を行っている授業科目について、モデルカリキュラムに記載されているスキルセットの「キーワード(知識・スキル)」、授業科目をそれぞれ記載してください。

⑨プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

--

⑧プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「科目a」 ・代表値(中央値、最頻値)、分散、標準偏差「科目a」 ・確率分布、正規分布「科目a」
	1-7 ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「科目a」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「科目a」 ・・・
	2-2
	2-7
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1
	1-2
	2-1
	3-1
	3-2
	3-3
	3-4
3-5	
3-10	
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ-AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I
	II

⑨プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

--

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 **令和6**年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	324	123	80	320	65	50	60	50									65	20%
経営学部	250	80	60	240	45	35	35	25									45	19%
国際教養学部	236	97	60	240	35	25	40	25									35	15%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	810	300	200	800	145	110	135	100	0	0	0	0	0	0	0	0	145	18%

履修者数は履修を開始した年度に計上してください。

修了者数は当該年度に修了要件を満たした者を計上してください。
(履修者の内数ではありません)

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	100	人
(非常勤)	50	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

20	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	〇〇 〇〇
(役職名)	〇〇センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織)

(名称) 〇〇大学〇〇委員会

全学的な組織が兼ねていても問題ありません。

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称) 〇〇プログラム実施規則

⑥ 体制の目的

データを活用し社会の課題を発見、解決できる人材を育成することを目的に、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な普及、関連科目の整備を行い、学内共同施設としてセンターを設置。本センターでは・・・ (400字以内目安)

⑦ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育研究センター長 〇〇
 〇〇学部 教授 〇〇
 〇〇学部 准教授 〇〇
 〇〇学部 企画課長 〇〇
 ……

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	20%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	70%
令和10年度予定	80%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

目標を実現するために、令和7年度より、授業時間内外での学習指導、質問を受け付ける仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポートを数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて実施し、学生のプログラム履修を促進している。また、令和9年度よりプログラムを構成する科目〇〇を全学必修にする計画である。…（500字以内目安）

「様式1③プログラム履修必須の有無」との整合性を意識し、可能な限り具体性や数値的な根拠を含めて記載してください。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

センターの設置により全学的な教育コンテンツを作成支援し、プログラムの基礎部分である科目〇〇については全学生が受講できるようオンデマンド教材を整備するとともに、各学部を担当者を配置し、全学的な履修を支援・促進している。…（400字以内目安）

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンス、SNSなどで、学生にプログラムを受講することの意義を周知している。学内でプログラムについてのポスターを掲示し、また、本学のWEBサイトホームページトップ画面にプログラム専用ページへのリンクを掲載して、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。…（400字以内目安）

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの授業について、LMSにアーカイブを蓄積し、多くの学生がいつでも講義の閲覧が可能な環境を構築している。… (400字以内目安)

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムについての履修をLMSにて管理し、学生は授業時間以外に不明点等をシステムを通じて確認することができ、質問はセンターの教員を通じて返答する体制を整備している。… (400字以内)

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 〇〇大学〇〇委員会

(責任者名) 〇〇 〇〇
 (役職名) 〇〇センター長

全学的な組織が兼ねていても問題ありません。

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	〇〇部において、プログラムの履修・修得状況の分析を実施し、履修データ分析システムの活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握することができる。・・・ (300字以内目安)
学修成果	〇〇部において実施している学生調査のうち「〇〇」の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を数理・データサイエンス・AI教育研究センターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。・・・ (300字以内目安)
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、〇〇部において学生の理解度を分析している。・・・ (300字以内目安)
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	受講生に対する授業アンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨について確認している。また、本教育プログラムの専用ページにおいて受講の感想等の意見を掲示し、講義受講の推奨に活用している。・・・ (300字以内目安)
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目〇〇については令和8年度から全学必修とすることが決まり、履修者数、履修率の向上にむけて推進している。また、兼務教員会議を定期的に行い、各学部における数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進している。・・・ (300字以内目安)

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業生調査を卒後〇年に実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また民間企業、公務員団体に対して企業調査を実施、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを設けている。・・・（300字以内目安）
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	共同研究等提携企業及び本学が毎年実施している〇〇シンポジウムに参加している企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集するとともに、数理・データサイエンス・AI教育研究センターにおいてプログラムの改善に活用している。・・・（300字以内目安）
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。取り上げる実例については、学生アンケート等を活用し、その内容について評価を実施している。・・・（300字以内目安）
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて学生アンケート及び提携企業からの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。・・・（300字以内目安）

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請単位	応用基礎レベル（大学等単位）
大学等名	〇〇大学
プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム

① 教育の高度化

本プログラムは、「応用基礎レベル」の教育プログラムとして~~~~~
~~~~~となっている。さらに、~~~~~仕組み  
を構築している。

・〇〇〇〇について  
~~~~~

・〇〇〇〇について
~~~~~

・〇〇〇〇について  
~~~~~

・〇〇〇〇について
~~~~~

- ・各項目の文字数の指定はありません。
- ・ページ数は、①、②及び③の全体で3ページ以内としてください。
- ・図や写真を挿入することは可能です。
- ・文字の大きさは、12ポイント以上を使用してください。

② 人材の輩出

本プログラムでは、プログラム終了後の出口につながる取組として以下のような独自の試みを行っている。

・ ○○○○について  
~~~~~

・ ○○○○について
~~~~~

・ ○○○○について  
~~~~~

・ ○○○○について
~~~~~

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

本プログラムでは、以下のような外部連携を実施している。

・〇〇〇〇について

~~~~~

・〇〇〇〇について

~~~~~

・〇〇〇〇について

~~~~~

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請単位	応用基礎レベル（学部・学科単位）
大学等名	〇〇大学
対象学部・学科等	〇〇学部
プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム（〇〇学部）

① 教育の高度化

本プログラムは、「応用基礎レベル」の教育プログラムとして~~~~~
 ~~~~~となっている。さらに、~~~~~仕組み  
 を構築している。

・〇〇〇〇について  
 ~~~~~

・〇〇〇〇について
 ~~~~~

・〇〇〇〇について  
 ~~~~~

・〇〇〇〇について
 ~~~~~

- ・各項目の文字数の指定はありません。
- ・ページ数は、①、②及び③の全体で3ページ以内としてください。
- ・図や写真を挿入することは可能です。
- ・文字の大きさは、12ポイント以上を使用してください。

② 人材の輩出

本プログラムでは、プログラム終了後の出口につながる取組として以下のような独自の試みを行っている。

・ ○○○○について  
~~~~~

・ ○○○○について
~~~~~

・ ○○○○について  
~~~~~

・ ○○○○について
~~~~~

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

本プログラムでは、以下のような外部連携を実施している。

・〇〇〇〇について

~~~~~

・〇〇〇〇について

~~~~~

・〇〇〇〇について

~~~~~

大学等名	〇〇大学 or 〇〇大学 (◇◇学部)	申請レベル	応用基礎レベル (大学等単位)
教育プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム or 〇〇大学応用基礎プログラム (〇〇学部)	申請年度	令和8年度

取組概要

「大学等名」

・ 応用基礎レベル (大学等単位)

「大学等名」には校名のみ記載してください。

⇒ 〇〇大学 / 〇〇高等専門学校

・ 応用基礎レベル (学部・学科等単位)

「大学等名」には学部・学科等名まで記載してください。

⇒ 〇〇大学 (◇◇学部)

「申請レベル」

以下より選択して記載してください。

・ 応用基礎レベル (大学等単位)

・ 応用基礎レベル (学部・学科等単位)

「教育プログラム名」

様式1およびHPに記載のプログラム名と統一ください

※応用基礎レベル (学部・学科等単位) の申請の場合、プログラム名に学部・学科等名を含む必要があります。

申請する教育プログラムの概要について、適宜図や写真等も挿入し、**1ページにまとめて**記載してください。

※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

必ず以下の4項目を含めて作成してください。

- ①プログラムの目的
- ②身に付けられる能力
- ③開講されている科目の構成 (科目名・単位数)
- ④修了要件

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて「先導的で独自の工夫・特色」を含めて作成してください。

本資料は文部科学省において公表資料として
使用する可能性があります

大学等名	〇〇大学 or 〇〇大学 (◇◇学部)	認定レベル	応用基礎レベル (大学等単位)
教育プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム or 〇〇大学応用基礎プログラム (〇〇学部)	認定年度	令和〇年度

取組概要

「大学等名」

・ 応用基礎レベル (大学等単位)

「大学等名」には校名のみ記載してください。

⇒ 〇〇大学 / 〇〇高等専門学校

・ 応用基礎レベル (学部・学科等単位)

「大学等名」には学部・学科等名まで記載してください。

⇒ 〇〇大学 (◇◇学部)

「教育プログラム名」

様式1およびHPに記載のプログラム名と統一ください

※応用基礎レベル (学部・学科等単位) の申請の場合、プログラム名に学部・学科等名を含む必要があります。

申請する教育プログラムの概要について、適宜図や写真等も挿入し、**1ページにまとめて**記載してください。

※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

必ず以下の4項目を含めて作成してください。

- ①プログラムの目的
- ②身に付けられる能力
- ③開講されている科目の構成 (科目名・単位数)
- ④修了要件

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて「先導的で独自の工夫・特色」を含めて作成してください。

「申請レベル」

以下より選択して記載してください。

- ・ 応用基礎レベル (大学等単位)
- ・ 応用基礎レベル (学部・学科等単位)

「認定年度」

そのレベルが認定された年度を記載してください。

本資料は文部科学省において公表資料として
使用する可能性があります